

### 新たな広告事業で 積極的な財源確保へ

**問**

市では18年度より、本庁舎エレベーターや広報紙、ホームページ、納税通知書の封筒などの広告事業に取り組み、19年度からは年間1000万円超の収入を確保していることから、財源確保策としてこの事業に期待している。

取手市では、公用車への車体広告事業として8台に広告を掲載し、順次増やす予定であり、北九州市では、広告掲載の事務用封筒を、無償で提供いただける事業者を募集している。市の広告事業の現状と、新たな財源確保の積極的な取り組みについて伺う。

**答**

広報紙や納税通知書封筒などの印刷物に加え、市庁舎・地域コミュニティセンターなどの各施設やホームページのバナー広告など、広告事業に取り

組んでおり、多くの企業に参入していただいた結果、21年度決算で1200万円の収入を確保した。

広告事業は自立的な財政運営を進めるための貴重な自主財源確保策の一つであることから、市庁舎などへのテレビモニター設置による動画広告事業について、23年度の導入に向け、具体的な検討を開始した。

また、広告が掲載された物品の受け入れについても、実施に向けて準備を進めるなど、今後も職員の創意工夫を生かし、さらなる財源確保に努める。



▲本庁舎内に設置された広告

### 東京スカイツリー®アンテナショップ 開業までのプロセスは

**問**

県は、東京スカイツリーに隣接する商業施設にアンテナショップを設置する方針を固め、運営事業者の募集を行っている。

①市ではどのような方針で参画し、どんな目標でPR戦略を実現していくのか。  
②出店までのプロセスと都市ブランド戦略をどう生かす予定か。

**答**

①県では、24年春国内外からの観光客など年間約2500万人の集客が見込まれる、東京スカイツリーの開業に併せて、物品販売機能や観光などの情報発信機能を備えたアンテナショップを、県内全市町と共同で設置を進めている。これにより、首都圏での情報発信拠点とし



▲画像提供：東武鉄道株式会社、東武タワースカイツリー株式会社

て、市のイメージアップや都市ブランドの向上、地場農産物や加工品などの産業振興、観光客の誘致促進につながることから、絶好の機会と捉え積極的に取り組んでいく。

②県では、ショップの設計・施工事業者が決定し、運営事業者の選定作業を進めている。今後、県や県内市町及び運営事業者や関係団体などの調整・連携強化を図るため「(仮称)アンテナショップ運営会議」を設置し、運営方針や商品選定、イベントなどの催事企画、観光情報発信などを具体的に検討していくので、この中で宇都宮の魅力を最大限発信できるよう努めていく。

### クリテリウムの観戦 子どもたちにトッププロの走り

**問**

市では、世界選手権自転車ロードレースの開催を機に、近年、宇都宮ブリッツエンの設立や自転車のまち推進計画、宮サイクルステーション、自転車道路の整備など、「自転車道のまち」への取り組みを進めてきたところである。

10月には念願の中心市街地でのロードレースであるクリテリウムが開催され、約3万人が沿道を埋め尽くしたが、観戦した子どもたちには見えにくかったようである。次回開催に向け、子どもたちが観戦しやすいような工夫や、映像の放映などの工夫が必要と考えるがいかがか。

**答**

子どもたちがプロスポーツなどのハイレベルなスポーツに接することは、青少年の健全育成やスポー

ツを始めるきっかけづくりに効果的であることから、今回のクリテリウムでは、スポーツ少年団の子どもを対象に、試験的に観戦場所を確保した。トッププロの走りを目の前で感じた子どもたちは、大変感激していたところである。

次回大会には、子どもたちの観戦場所の確保のほか、現在検討中における大型映像装置の活用など、観戦しやすい環境づくりに努めていく。



▲クリテリウムの様子